

このような人達も、それぞれに自分の思い癖、心癖は相当なものだと思えます。

それをまずは、しっかりと知ることです。

人間の心の中は真っ黒だ。

この大前提のもとで、しっかりと自分を見つめていきましよう。そして、真っ黒だから生まれてきたことを知っていきましよう。

本当の自分との出会いは、まず真っ黒な自分との出会いから始まっていくのです。

自分の姿を知らない人（真つ黒な自分との出会いがない人）に、心優しき人、心正しき人、愛深き人など、存在しないのです。

自分を形としてとらえている立場から、どんなに正義を語り、愛を語っても、それは、本当の正義でもなければ、本当の愛でもないことを、その人達自身が、自分の心で気付いていかなければならないと思います。

昨年から、日本の国において、偽装が大流行おおはやりです。

今はまだ、偽装は、食品等の目に見える世界のことですが、世の中は、偽物の正義、偽物の愛が蔓延まんえんしている状態です。

偽物ですというメッセージが、次から次へと私達人間社会に呼びかけてくるのです。

その呼びかけは、警告ととらえてもいいかもしれませんが。

それは、形を本物としている人間社会には、確かに厳しいもの
でしょう。

しかし、その厳しさは、本物と出会いたい、もう偽物のままでは
どうすることもできないと、切実に自分達に訴えている自分達の悲
鳴だと言えると思います。

「形としてとらえるところから、心で感じる方向へ行きましょう。
そうしなければ、何も分かりません」

というメッセージが、それぞれの現象に込められていると、私は
思うのです。

それは、厳しいし、なかなか容易くは受け止めることは難しいか

もしもかもしれませんが、そこに、何とも言えない優しさを感じます。

私達はみんな間違っただけで、偽物の自分が本物の自分に深々と頭こゝろを垂れることから、本当のことが始まるのではないかと、今、思っています。

なかなか、深々と頭こゝろを垂れることは難しいことも承知の上で、それでも、やはり、そうしていくことが、そうしていくことだけが、自分を幸せに、喜びに導いていくのだと感じています。

今の自分をしっかりと見つめていけば、自分に自分が頭こゝろを垂れるその時期も、遠からずやってくることが感じられます。

ごめんなさい、間違っていましたと心の底から懺悔ざんげする機会を、みんなそれぞれに用意していきます。

心の底からの懺悔ざんげです。

愚かなことを性懲りしょうごりもなく繰り返してきた人間に、心の底からの懺悔ざんげの機会をもたらし、それは当然のごとく、大変な現象だといふことです。

大変なことが起こってこなければ、もはや、気付くことができなくなってしまうた現実を直視していきましょう。

今は物騒な世の中です。

いわゆるキレル人種がうようよしています。

何かちよつとした些細ささいなことでキレます。

自分の思い通りにいかないことがあれば、人を殺すことも平気でやつてのけます。

僅かな金品のために人の命を奪っていきます。

己の欲望のために、人を蹂躪じゅうりゃんしていきます。

その手段、方法は、インターネットを通じて事細かに教えてくれます。今はそのような世の中です。

そして、その一方では、人の命の大切さ、尊さを訴え、愛を叫んでいます。しかし、それだつて疑わしいものです。

確かに、罪を犯す人達は、心の中の闇の部分が表面に現れてきている人達だと思えます。

その人達がどのような家庭環境の中で育ったか、そうなるべき境遇であったのか、ひとつひとつ追跡していけば、気の毒な事情もあるかもしれません。

そうなるべくして起こってきたことかもしれません。

しかし、現に罪を犯し、人を傷つけたり、人の人生を狂わせたりしてしまいました。それはそれで償うべきことだと思います。

それはそれとして、では、罪を犯して刑に服する人達と、模範的なもつともらしいことをとうとうと語り、愛を静かに、そして、時には熱く語り、人を愛することの大切さ、命を尊ぶことを訴えている人達と、どのような違いがあると思いますか。

何が良くて、何が悪いのか、何が本物で何が偽物なのか、あなたは何を基準に判断されますか。

あなたが本物だと信じて疑うことのなかったものが、ある日突然、

それは偽物だったと知ったとき、どうしますか。

どうでもいいようなことや、どちらに転んでもそんなに大差はないと思われることならば、ああ、そうか偽物だったのか、世の中こんなものだとなるでしょう。

しかし、私が言っているのは、自分の根幹に関わるもの、または、関わることで、それは偽物だと知らされたらということなのです。

端的に言えば、自分というもの、自分という存在、今、自分が自分だと思っている思い、そういうものが、実は偽物だったとなったならば、どうしますかということなのです。

まさか、それが偽物だったなどと、簡単に思えません。

今の自分を自分だとすることに、誰も疑ってはいないでしょう。

人も自分も、目に見えている自分達（物体）を指して言っていることなど当たり前です。どんなこともそこから出発しています。言うこと、すること、みんなそうです。

世の中は、それを基準にして動いています。

自分達（物体）の幸せと喜び、繁栄のために、尽力しているので
す。

それがこの世の流れです。

その流れを根底から覆すものがあるとすれば、それは、もはや天変地異しかないことは、薄々感じてきているのではないでしょうか。

ところで、肉の自分を喜びに誘うものは、たくさんありました。

まず、自分というものを認めさせることに無上の喜びを感じていく、これは肉を持ってきた人間として、ごく当たり前のことだと思います。

肉を崇めよ、我を見よ、今となつては、その哀れさをつくづく感じるどころですが、肉という形を本物として生きる者にとっては、これほどの榮譽はないのです。

本当の自分を見失って、ずっとさ迷い続けてきたという事実、現実と真向かいになることを、恐れてきました。

人間とは、そういうものだと思っています。

しかし、自分と真向かいになれずにいる、偽物の自分しか知ろう

としない、これでは、どんなに頑張ったところで、絶対に幸せになることはない、それが、学びと出会い、田池留吉氏と出会った私の出した結論でした。

己の欲心のままに、長い間、神、仏に代表される目に見えないパワーの世界を、自分の外に求め続けてきた私達です。

願いを込め、祈るといふことの間違いや恐ろしさを知らずにきたのです。

何かあれば、ふと祈りが心に上がってきませんか。

救いを求める思いはありませんか。

何か、摩訶不思議なパワーを期待していませんか。

実は、それらの思いは、みんな本当の自分を忘れ去ったところか

ら発せられるものなのです。

本当の自分を忘れ去って、手を合わせたり、祈りを捧げたりして
いくのです。

いったい、何に向かって、手を合わせ、祈りを捧げているのか考
えたことはありませんか。

ないでしょう。

手を合わせ、祈りを捧げることがいいことだと思っているからで
す。

その行為、いいえ、それをする自分の思いは、自分を冒流ぼうとくしてい
る思いなのだということに、気が付いていません。

それは、自分自身が何者であるのかを知らずに、今まで存在して

きた証拠だとも言えるでしょう。